

## 令和6年度 園芸科「農業選択 食品流通」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸 科 3年 A組
教科書	食品流通 (実教出版)	副教材等	オリジナルワークシート

### 1 学習の到達目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品流通とマーケティングに必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- ・食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ・食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 2 重点目標

身近な米、青果物、畜産物等の流通について基礎的な知識を習得する。また、世界の食糧事情や日本の食糧需給について理解し、食料の安定的な供給について関心を高める。

### 3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	現代生活と食品流通	流通の始まりと発展	私たちの生活と流通  自給自足、物々交換から市へ  近代的な流通の発展	流通とは何かを理解できる (ワークシート) 生産と消費のへだたりについて理解し、これを説明することができる (班別学習行動観察)
		流通の働き	生産と消費のへだたり  物流、商流、情報流	流通の働きについて、身近な事例を参考にして考察する。
5	おもな食品の流通	青果物の流通  中間考査	流通と費用  流通を支えるしくみ  青果物の商品特性と卸売市場 青果物流通の変化と急増する輸入青果物	青果物の消費・購入の変化と流通変化の関係について、グラフを読み解くことができる (ワークシート分析)
6	現代生活と食品流通	食品流通の役割	生活に欠かせない食品流通  食品流通に求められるもの	食品流通の重要性について資料を活用することができる。また、食品流通に求められる安定性、安全性、効率性についてグラフ等を活用して表現できる (ワークシート)
7	経済活動と食料	経済発展と食糧消費	経済システムの基本  所得水準と食料消費	所得水準と食料消費の関連について興味をもって学ぶことができた (班別学習行動観察)
		世界の食料事情  期末考査	増加する人口と食料生産  世界の食料需給、輸出する国、輸入する国  グローバル化する食品流通の意義と問題点	外国と比べ、日本の食料消費の特徴について理解できる。また、世界の食料生産と人口について、グラフ等で表現することができた (ワークシート分析) 国際食料価格の特徴と貿易の流れについて、資料を参考に説明できる (班別学習行動観察)

9  10  11  12	経済活動と食料	日本の食生活, 食料需給と自給率	日本の食生活 日本の食料需給と農産品貿易 日本の食料自給率	日本の食料消費の変化について興味をもって学んだ(班別学習行動観察) 食料生産・輸出入の動向について資料を活用できる(班別学習行動観察) 日本の自給率の動向について、グラフや表を理解できる(ワークシート分析) 米の食品特性と流通について、興味をもって学ぶことができた(ワークシート分析) 麦の商品特性と流通について理解することができた(ワークシート分析) 小麦粉の特性と製品について、身近な商品から考えることができる(班別学習行動観察)  食品流通の位置づけを理解することができた 流通経路の概要を知り、卸売業者や小売業者の役割について説明することができた
	おもな食品の流通	米の流通 麦の流通	食品としての特性 米の分類・種類 流通制度 検査と表示制度 商品としての特性	
	経済活動と食料	中間考査	麦の種類と用途 小麦粉の流通	
	食品流通のしくみと働き	私たちをとりまくフードシステム 食品流通の特徴	フードシステムのしくみ フードシステムを構成する産業 商品と生産、需用の特徴 流通経路と担い手 卸売業者、小売業者 価格の決定 販売価格の形成	
おもな食品の流通	畜産物の流通 期末考査	食肉の商品特性 食肉の種類と流通 牛乳・乳製品の流通		
1	食品の品質と規格  食品マーケティング	食品の品質と安全性 食品マーケティング 加工食品の流通  学年末考査	食品の品質と機能 食品の信頼と安全性 マーケティングの始まりと供給過剰の時代 加工食品の商品特性 加工食品の多様性と流通 地場加工食品と流通	食品にどのような役割があるか興味をもって学ぶことができる(班別学習行動観察) マーケティングの意味と、生じた背景について理解できる(ワークシート分析) 加工食品の多様性と日本の生んだ加工食品について資料を活用し、わかりやすく発表できる(班別学習行動観察)

#### 4 評価の観点

知識・技術	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 農業生物の育成と環境保全に関するプロジェクト学習を通して、知識と技術を理解し、農業の社会的な意義や役割を理解している。
思考・判断・表現	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 探究的な学習活動を通して、生物生産の仕組みとその育成や地域環境に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。 農業の各分野への展開と活用を目指し、主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、農業の振興や社会貢献に主体的活協働的に取り組む力を身につけている。

#### 5 評価の方法

「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」、の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

#### 6 担当者からのメッセージ

- ・出席を常にしてください。
- ・実習を伴う科目です。実習に必要な教具を準備し、適切な服装で参加してください。(白衣は貸し出します)
- ・ワークシート、定期考査問題等を整理するために、糊、ハサミを各自で用意してください。
- ・各実習内容の原理や意味を考えながら実習してください。
- ・ノート提出を定期的にももらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。
- ・安全に配慮して、実習してください。